

## 核データ専門部会の新体制

前稿の「核データ専門部会評価活動調査タスクフォース」の答申を、グループリーダ会合（元年3月16日）で検討し、核データ専門部会の新年度体制を決め、4月26日の核データ専門部会全体会合で承認された。以下に、新体制と各WG・SWGの作業予定を示す。〔 〕内はグループリーダを示す。

### 核データ専門部会〔水本 元治（原研）〕

#### 核データ評価WG〔中川 庸雄（原研）〕

##### 評価用データベースSWG〔柴田 恵一（原研）〕

評価計算用パラメータのデータベース化，AI利用の検討，コードのマニュアル作成，ファイルの検討，ファイル使用経験のデータベース化。

##### 理論コードSWG〔大澤 孝明（近大）〕

評価理論の検討，計算コードの開発。

##### F P核データSWG〔川合 将義（NAIG）〕

F P核種の核データ評価

#### 核融合核データWG〔神田 幸則（九大）〕

核融合核データ利用者との連絡，調整，DDXデータの検討等を以下の2つのSWGとは独立に行う。

##### 放射化断面積SWG〔中島 豊（原研）〕

放射化断面積の評価，スコープの作成。

##### PKAスペクトルSWG〔飯島 俊吾（NAIG）〕

PKAスペクトルの評価，計算法の開発，対象元素・格納量の検討。

#### 荷電粒子核データWG〔松延 廣幸（住友原工）〕

$(\alpha, n)$  反応断面積評価，荷電粒子（特に陽子）の測定データの収集，ターゲットの選定，理論コードによる解析。

#### 光核反応データWG〔岸田 則生（CRC）〕

光核反応データの評価（加速器，宇宙線，消滅処理関連），計算コードの開発。

核データ専門部会には45名の専門委員が属している。この体制が決まったことで、核データ専門部会はJENDL-3作成体制から、JENDL-3以降の特殊目的データファイル作成、核データ評価のための道具作りを主目的として作業を進めることになった。

---

#### PROGRESS REPORT 作成についてのお願い

今年も例年通り核データに関するProgress Reportを作成する予定でおります。Progress Reportは、NEA核データ委員会(NEANDC)が、その参加国に少なくとも年に一度の発行を要請しているものであり、日本でも1965年以来毎年発行し続けております。Progress Reportは、原子力開発に必要な広い範囲の核データに関する研究報告を掲載することを目的としております。

今回は、1988年7月から1989年6月までに行なわれた研究(進行中の研究も含む)を対象としております。該当する場合は、原研核データセンターへ8月5日(土)までに原稿をお送り下さい。投稿に関する詳細は各研究室等の責任者に近日中にお送りする予定ですが、個人的に御希望の方は原研核データセンター(Tel. 0292-82-5481)迄御連絡下さい。

なお、Progress Reportは、NEANDC(J)DocumentおよびINDC(JPN)Documentとして、海外に約650部、国内に約150部が配付されます。掲載された内容は、CINDAに採録されますが、ご報告そのものは、未公開扱いになります。